

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

あとは、本番を待つばかり

心配された台風12号は関東の東海岸沖を通り過ぎ、あとは秋雨前線による雨が止むのを待つばかり。いよいよ明日には、運動会本番をむかえます。新型コロナウイルス蔓延を受け、まず「運動会を開催できるのだろうか」から始まり、「何ができるのだろうか」「どのようにしたら感染防止対策となるのだろうか」・・・児童の安全を第一に捉え、職員一同頭を悩ませながら方向性を出し、計画してきました。限られた条件の中、また厳しい制約や感染防止対策の中、児童は今日まで頑張ってお練習してきました。

授業時間確保のため練習期間を絞りました。また暑い日が続いたため、一時間の練習を20分ほどにしたことも多くありました。体を動かさなかった期間が長かったことへの配慮もしました。そんな条件の中でも、家族の皆様にも少しでも良いものを見せようと、子供たちは精一杯取り組んでくれたと思います。運動会には勝敗があります。勝った組は喜び、負けた組はしょんぼりするでしょう。でも、それ以上の達成感を感じてほしいと思っています。特に高学年児童には、係の仕事もあります。短い時間の運動会ではありますが、自分の出番を思い切り楽しんでほしいです。

保護者の皆様には、これまでご理解とともにいろいろなお願いをしてきました。昨年度までの運動会に比べ寂しい思いのある皆様も多いかと思いますが、状況を理解いただき、不満を一つも口に出して寄せられない皆様に「他校に誇れる 百田小保護者の姿」を見ることができ、校長として喜びを感じます。当日まで、もう一息ご協力ください。

- ・2名程度でのご来校。 ・観覧スペース（お子さんが出る時）と待機スペースの順守。
- ・ソーシャルディスタンス（前後左右1m以上）の確保。
- ・児童席や本部テント、トラックへの立ち入り禁止。 ・感染防止、熱中症予防。
- ・校地内への車の出入り禁止（周辺に限られた駐車場確保 中学校、保育所、JA）。

※詳しくは9/16付の文書、学校だよりNO.13、各学年だより

※変更のある場合のみ、メールにてお知らせします。（ない場合は通常登校）

※拍手は最大限、声援は心の中で精一杯送ってください。



児童用のテントも出そろいました

体育館の工事が始まります

休み明け9/29より、体育館の工事が始まります。これに伴い、校舎北側の駐車場がせまくなったり、体育館北側が通れなくなったり、いろいろとご不便をかけます。ご来校いただく時や学童クラブへの送迎の際には、十分にご注意ください。（詳しいことは、9/23文書）

メダルより人が輝く場面

1984年、ロスアンゼルスオリンピックの柔道無差別級で山下泰裕選手（現 JOC 会長）が金メダルを取りました。なお山下選手は 203 連勝という記録を残し、不敗のまま引退しました。また 2016 年、リオデジャネイロオリンピックの体操個人総合で内村航平選手が金メダルを取り、世界一になりました。この快挙に、日本中が喜びにわきました。その裏で銀メダル、すなわち世界 2 位になった選手を覚えているでしょうか。

山下選手に決勝で敗れたのは、エジプトのモハメド・ラシュワン選手です。じつは山下選手は 2 回戦で右足ふくらはぎの肉離れを起こし、必死で隠そうとしたものの、足を引きずるその姿からは、誰もが痛々しさを感じたことでしょう。「金メダル間違いなし」と言われた前回のモスクワオリンピックには、日本がボイコットしたため参加することができず、このオリンピックにかけていた山下選手の悲壮感がひしひしと感じられました。この状況の中、ラシュワン選手は山下選手の右足を攻めることを明確にこぼみ、結果として敗れました。試合後、痛めた足を攻撃しなかった理由を聞かれ、「私の信仰とモラルのどちらも、私にそうさせないでしょう」と答えたラシュワン選手の言葉と、表彰式で山下選手の腕をそっと支えた姿が印象的でした。後にラシュワン選手には「国際フェアプレー賞」が贈られました。



一方、内村選手に敗れ銀メダルとなったのは、ウクライナのオレグ・ベルニャエフ選手です。二人は、最後の最後まで僅差で競い、ベルニャエフ選手が 0.901 点差リードのまま、最終種目の鉄棒をむかえました。ここで内村選手はほぼ完璧な演技を見せ、15.800 の高得点を得ました。次のベルニャエフ選手も重圧をはねのけ、内村選手に劣らないほどの見事な演技を行いました。しかし得点は 14.800。0.099 という 0.1 未満の差で内村選手が逆転の金メダルとなり、世界一を勝ち取りました。この結果に疑問を持った記者から内村選手に、「あなたは審判から好意的にみられているのでは？」という辛辣な質問が投げかけられました。この質問に対し、真っ先に反論の声をあげたのは内村選手の隣でインタビューを受けていたベルニャエフ選手でした。「判定は正しい。今の質問は無駄だと思う。」と記者の質問を切って捨てたのです。自分に勝った選手に対する敬意を忘れず、相手の勝利を素直にたたえる姿に、感動を覚えました。内村選手も「次に大きな大会で戦ったら、ベルニャエフ選手には絶対に勝てないだろう」と相手をたたえています。



オリンピックは、国と国との金メダル獲得競争ではなく、選手同士が、極限の中で最高の技と心を競いあう大会だと思います。だからこそ、これらの姿が感動を呼ぶのでしょう。東京オリンピックは、残念ながら延期となりました。新型コロナウイルスが終息し、安心して観戦できることを願っています。

オリンピックとまでいなくても、私たちの身の周りにはスポーツや芸術をはじめ、感動を覚える場面もたくさん存在します。ぜひ子供たちにも、何か夢中になれる、感動できる、自他を認め合い、そして満足できる、そんな体験をたくさん積んでいってほしいと思います。私などは、マラソン大会で 42.195km を走り終え、完走メダルをかけてもらうだけでも大きな感動です。もちろん順位は下から数えたほうが早いです。〔一部 運動会開会式での話〕

